

防災マニュアル(地震発生時の心得)

本校では地震発生時の対応として下記の通り実施しますので、いざという時に冷静な判断と行動がとれるように心がけて下さい。校内にいる時は先生方の指示に従い、校外の場合は警察官などの公的機関の人々の指示に従って行動して下さい。

記

【1】学内にいる時の対応

- (1) 気象庁からの『緊急地震速報』を受信し震度5弱以上の場合、全館へ次のような放送が一斉に流れます。
- ① 警報音が鳴る。
 - ② 「緊急地震速報。地震が来ます。震度●以上の揺れが予想されます」という音声が行く。
 - ③ 地震到達の6秒前から「6, 5, 4, 3, 2, 1」という音声が流れる。
 - ④ 「地震発生。身の安全に注意して下さい」という音声が流れる。
 - ⑤ その場にいる教員の指示に従う。
- ※1 『緊急地震速報』が発令されても震度4以下だった場合は、状況を判断した上で生徒を下校させます。
- ※2 『緊急地震速報』が発令されなかったのに震度5弱以上だった場合は、上記(1)-④を職員が校内放送で告知し、学内緊急体制を実施します。
- (2) 『緊急地震速報』時の対応
- ① 教室内にいた場合
 - 落下物がない場所でしゃがみ、頭部を保護しながら揺れに備える。
 - 窓ガラスからできるだけ離れた場所で、ガラスの飛散に備える。
 - ② 校庭・第二グラウンドにいた場合
 - 危険の少ない中央に集まり揺れに備える。
 - ③ 体育館・記念館にいた場合
 - 落下物の比較的少ない壁際に移動し、頭部を保護する。
 - ④ 理科実験室・家庭科調理室にいた場合
 - 火を消す。
 - 薬品・火から離れ、薬品棚や食器棚からも離れる。
 - ガラス・薬品・食器の飛散に気をつける。
- (3) 強い揺れの収まった後の対応
- 初期消火活動や負傷者の応急手当・救出活動が行われるが、校舎に大した損傷がない場合は生徒は教室に待機させる。
 - 学校が一番安全と思われる場合 → 生徒・職員は学校待機 → 交通機関がマヒした場合 → 生徒・職員は学校に宿泊
 - 学校周辺で火災が発生・避難指示が発令された場合 → 広域避難場所へ移動する
 - 避難指示が解除された場合 → 学校内の安全確認 → 生徒・職員とも学校に戻る
 - 学校周辺が危険な場合 → 広域避難場所に待機 ※広域避難場所 = 中目黒公園

【2】校外授業時の対応

- 現地の指示に従って行動するとともに身の安全を確保する。
 - ※ 引率教員が対応すべきこと
 - 周辺関係者から災害状況を収集し、何らかの手段を講じて本校と連絡をとり、生徒の安否情報を伝達することに努める。

【3】登下校時の対応

- 現地の指示に従う。
- ① あらかじめ保護者と生徒との相談により定められた避難場所がある場合は、そこを目指す。
- ② 親子の取り決めがない場合は、自宅と学校のどちらが近いかを判断し、近い方を目指す。
- 学校と保護者は生徒の安否情報の共有(連絡の取り合い)を図る。
 - ※ 揺れが大きい場合、発信規制によって電話が通じなくなる可能性が大のためニッポン放送(ラジオ)の『私立学校安否情報』で情報が得られます。

【4】テレビやラジオで『警戒宣言』が発令された時の対応

- ①在学中
安全に帰宅できる見通しがつくまで学校で待機する。
- ②登下校時
現地の指示に従う。
- ③在宅時
登校の必要はなく、自宅で待機する。

【5】保護者の皆様へのお願い

- 生徒の安否確認
強い揺れの地震が発生した場合、その影響で固定・携帯電話双方とも発信規制がかかり長時間つながらない状況になりますので安否確認は極力、

ラジオのニッポン放送(ダイヤル 1242) 『私立学校安否情報』

を聞いてご確認なさってください。

※学校の対応

- ①都内23区または横浜・川崎市内のいずれか1ヶ所でも震度5弱以上の地震があった場合、学校は安全に帰宅できる見通しがつくまで生徒を帰宅させず学校で保護します。
- ②その際、生徒の安否情報・学校の被災状況・授業の見通しなどを、あらゆる手段を講じて提供できるよう努力いたします。

以 上